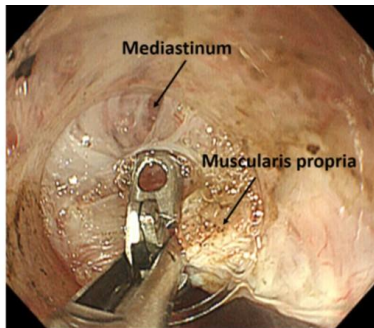
	シリーズ名	食道アカラシアに対する筋層生検による分子生物学的な検討
	所属・役職・氏名	消化器内科学・病院講師・大南 雅揮 (OHMINAMI, Masaki)

<要旨>

食道アカラシアは下部食道括約筋の弛緩不全と食道体部の蠕動運動の障害を特徴とする疾患で、アウエルバッハ神経叢の変性がみられる。原因として、ウイルス感染、免疫異常、遺伝、消化管ホルモンとの関連が報告されているが、その詳細は未だ不明である。食道アカラシアに対する経口内視鏡的筋層切開術(POEM)の術中に筋層生検を実施してサンプルを採取し、①消化管神経システム構成細胞および炎症細胞の形態学的・量的評価、②miRNA発現量の網羅的解析(miRNA マイクロアレイ法)、③ウイルス等感染症の関連性の評価など、分子生物学的に検討することで、食道アカラシアの病態の解明を目標とする。

<研究シリーズ説明>



①免疫組織化学法
消化管神経システム構成細胞と炎症細胞の病理学的特徴の検討

②miRNA発現の網羅的解析

③ウイルス感染症の関連性の評価



食道運動機能異常症の病態解明、
治療法や予防法の確立へ

【POEM下筋層生検】

筋層間の神経叢を含めて筋層サンプルを採取する
Takahashi K. J Gastroenterol Hepatol. 2015; 30(7): 1113.より引用

[図1] 本研究のoverview

<アピールポイント>

食道アカラシアの病態解明につながるが見込まれる。

<利用・用途・応用分野>

食道アカラシアの診断・治療

<知的財産権・論文・学会発表など>

なし

<関連するURL>

<http://osaka-cu-gastro.jp/gastroenterology/>

<他分野に求めるニーズ>

なし

キーワード	食道アカラシア、筋層生検、経口内視鏡的筋層切開術(POEM)、分子生物学
-------	--------------------------------------